

ロッテバイオロジクスが日本・台湾で事業展開する米国企業 と協業に関する基本合意書（LOI）を締結

- 米国に本社を置く、グローバルなグループ企業と戦略的な事業協業に関するLOIを締結
- LOIを通じて、パートナー企業とシナジーを強化し、国境を越えたビジネス機会を拡大

ロッテバイオロジクス（本社：韓国ソウル市、CEO：ジェームズ・パク）は、米国に本社を置き、日本・台湾にも拠点と事業を展開するバイオテクノロジー企業と、戦略的な事業協業に関する基本合意書（LOI）を締結したことをお知らせします。パートナー企業が開発した革新的な治療薬は、日本ではすでに承認・発売され、臨床・商業面で成功を収めています。パートナー企業はさらに、米国や日本を含む複数の国で市場流通に向けていくつかのパイプラインを進行しています。

本LOIにより、両社は抗体およびADC（抗体薬物複合体）の製造における協業を構築し、長期的なパートナーシップを追求します。協業の一環として、ロッテバイオロジクスは米国シラキウスバイオキャンパスでの製造サービスを提供開始します。

ロッテバイオロジクスは本LOIをパートナー企業との信頼関係構築の第一歩と位置付け、今後の共同事業や新たな取り組みに向けた基盤としていきます。また、このパートナーシップを活かし、CDMO事業のさらなる拡大と、日本および米国でのブランド認知向上を目指します。

今回のLOI締結はロッテバイオロジクスの品質、製造技術、地理的優位性が認められた結果であると考えています。両社は安定的かつ効率的なコミュニケーション体制を構築し、商業製造も模索していきます。

LOIは「BioJapan2025」で締結されました。BioJapan2025では、CEO ジェームズ・パクをはじめとするロッテバイオロジクスの経営陣が、グローバル製薬企業だけでなく、日本の中堅企業やバイオテックスタートアップとも積極的に意見交換を行いました。

ロッテバイオロジクスの広報担当者は「本合意は、日本で強い存在感を持つパートナーとの初めての協業であり、品質・透明性・長期的協業へのコミットメントに基づいています。今後もCPHI WorldwideやWorld ADC San Diegoなどのグローバルイベントを通じて競争力を強化し、顧客ネットワークの拡大を図ります」とコメントしています。

■ ロッテバイオリジクスについて

ロッテバイオリジクスは、より健康的な世界に貢献する医薬品を提供することを使命として、2022年に韓国ソウルに本社を置いて設立されました。

米ニューヨーク州にあるシラキウス・バイオキャンパスでは、医薬品原薬の高品質なGMP製造サービスを提供しています。この施設では、5,000リットルのステンレス製バイリアクター8基による合計40,000リットルの生産能力を備えています。また、同キャンパスには、世界 62 以上の規制当局から承認を受けた分析QC試験ラボや倉庫施設も併設されています。さらにロッテバイオリジクスは、抗体薬物複合体（ADC）の結合技術サービスを通じて、新たな専門領域にも進出しています。原薬製造および結合機能の両方を備えたADCモダリティに1億ドル以上の投資を行っており、原薬製造からコンジュゲーション（結合）まで一貫した、エンドツーエンドのサービスを提供しています。

ロッテバイオリジクスは将来を見据え、韓国松島（ソンド）バイオキャンパスにおいて、先進的なバイオプラントの建設を進めています。第1プラントはすでに着工しており、2027年の稼働開始を予定。施設には、商業生産向けの15,000リットルのステンレス製バイリアクター8基と、臨床用途に対応する2,000リットルのシングルユースバイリアクター複数基が設置される予定です。これらは合計で120,000リットルを超えるバイリアクター容量を誇る製造拠点となります。

<https://www.lottebiologics.com>